

事業所名

児童デイサービス PANDA (単位1)

支援プログラム (参考様式)

作成日

2025年

3月

14日

法人（事業所）理念	こどもたちや家族、職員にとって安心・安全・安らぎの場として				
支援方針	遊びを通してこどもたちの「すき」や「得意」を見付けてぐんぐん伸ばす。そこから自信を付けて自己肯定感を高めてほしい。ひとりひとりに寄り添い、こどもたちが毎日笑顔で通える場所でありたい。				
営業時間	9時 00分から 18時 00分まで 送迎実施の有無 あり				
	支援目標 支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	●健康状態の維持・改善 ●生活のリズムや生活習慣の形成	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。		
	運動・感覚	●姿勢と運動・動作の向上 ●姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 ●保有する感覚の総合的な活用	視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛けりとして活用できるよう支援する。数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。		
	認知・行動	●認知の発達と行動の習得 ●空間・時間、数等の概念形成の習得 ●対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。物の機能や属性、形、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛けりとして活用できるよう支援する。数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。		
	言語 コミュニケーション	●言語の形成と活用 ●言語の受容及び表出 ●コミュニケーションの基礎的能力の向上 ●コミュニケーション手段の選択と活用 時間、数等の概念形成の習得	具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。発達障害の子どもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。		
	人間関係 社会性	●他者との関わり（人間関係）の形成 ●自己の理解と行動の調整 ●仲間づくりと集団への参加	人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつむり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したリールを守って遊び協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。		
家族支援	日常の支援を通して、ご家族が何を必要としているか、または必要とされている情報を共有し、課題解決に向けての提案などを行う。		移行支援	・基本動作の確認及び習得（あいさつ・身辺自立・身だしなみ等）	
地域支援・地域連携	・地域行事への参加が図れるよう情報収集を行う ・地域での同サービス事業所（児童デイ）との連携・情報共有を積極的に行う ・避難訓練を通して地域資源の確認及び交流		職員の質の向上	・外部研修への積極的な情報共有・派遣等 ・研修参加後の事業所内研修実施によるフィードバック ・月2回以上の定例会議開催（支援会議・職務会議）	
主な行事等	誕生会（毎月）、遠足、保護者会、クリスマス会、季節の行事など				